

今週のメニュー

■トピックス

◇塩ビ製パーティション“スネーク”

■随想

◇古代ヤマトの遠景（59）－【応神王家の誕生（2）】－

信越化学工業（株） 木下 清隆

■お知らせ

○【NEW】国際プラスチックフェア（IPF Japan 2011） 出展のご案内

○【NEW】日経住まいのリフォーム博2011 出展のご案内

■編集後記

■トピックス

◇塩ビ製パーティション“スネーク”

このメールマガジンでもときどき紹介してきました[“塩ビものづくりコンテスト2011”](#)には、多くのユニークなアイデアが寄せられ、その注目度合いに我々塩ビに携わる者も大変勇気付けられました。この塩ビを素材とした作品製作をきっかけに、世界に羽ばたくデザイナーが生まれたらさらに素晴らしいことだと思います。さて、世界で活躍する日本人のデザイナーは大勢いらっしゃいますが、最近、イタリアで活躍される日本人デザイナーが塩ビパイプを使ったパーティションを考案されていたことを知りました。

室内で使われるパーティションというとフロアを完全に遮断することを目的としたものから、目隠し程度にひとつのフロアを仕切るためのものなどいろいろあります。一般的には、ボード状のものを床に立てかけたり、固定したり、あるいは、天井から吊り下げるなどの形状を思い起こすかもしれません。ところが、この製品は、半円形状のパイプをチェーン状につないだもので、床にくねくねと蛇行した形に立てかけるものです。その名も“スネーク”。欧州のPVC Today Magazineで、この製品が日本人のデザイナー細江勲夫氏の手によるものであることに更に興味を抱きいろいろ調べたところ、国内のイタリア高級家具店でも取り扱われていることを知りました。

[PVC TODAY Spring 号](#)
[domus - SNAKE](#)

パーティション“スネーク”は、1987年、イタリアのコンパッソ・ドーロ賞（工業デザイン賞）選抜作品、1988年にはドイツのオルガテック・オフィスデザイン賞を受賞しています。材料は塩ビパイプですが、通常使われるパイプではなく、特殊仕様で押出し成形されたパイプだそうです。色は、白、グレー、透明、スリガラス調とあり、欠けた月のような形を



“Snake”の設置の様子
(PVC Today Magazine より)



“Snake”を収納した際の
上から見た状態
(PVC Today Magazine より)

したパイプをお互い組み合わせるように繋がっています。インド・アート（TANTRA）からインスピレーションを受けているとのこと。支持体なく自立させて使うためにはある程度の重量感も必要かと考えられます。塩ビの加工性の良さばかりでなく、塩ビの特徴が活かされたものと思います。

自由自在に立てかけられる（自立する）パーティションは、急遽、フロアの一角を仕切ってミーティングの場所や仕事場を確保することに便利です。普段使用しないときには丸めて収納できることも魅力です。フロアを曲面で区切ることで、部屋のレイアウトのアクセントになるばかりでなく精神的にも安らぎを感じます。細江氏の多くの作品の中には、「ヘビ」と名づけられたテーブルランプもあります。

[SAPPHIRE INSPIRED BAR - HEBI](#)

こちら素材は塩ビということで一見の価値があります。いずれの作品も、現在でも新しい感覚で接することのできるまさにベストセラーの作品といったところではないでしょうか。（了）

■ 随想

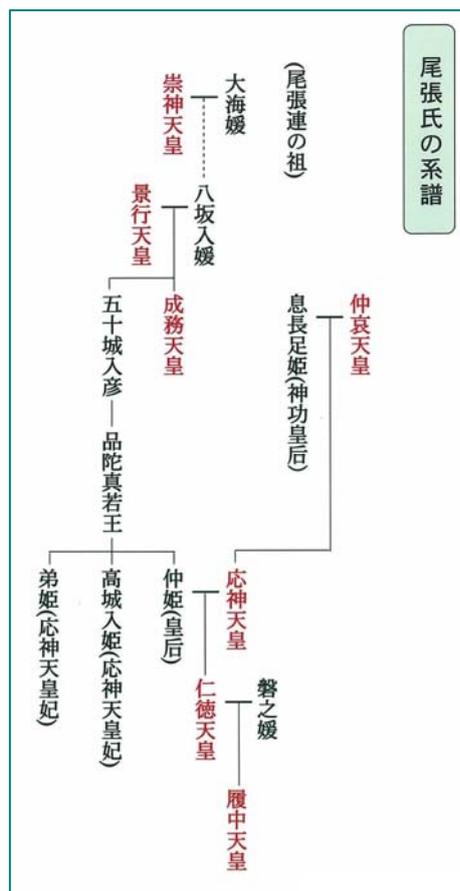
◇古代ヤマトの遠景（59）－【応神王家の誕生（2）】－

信越化学工業（株） 木下 清隆

「ホムタ・オシクマ戦争」は、前回説明したような諸々の要因が重なって起こったといえよう。しかし、この戦争では基本的に不明な点が一つある。それは、オシクマ側の勢力がホムタ側に比し、二倍程度多かったことが指摘されていながら、劣勢のホムタ側が勝利した点である。その理由として武器の性能等が良かったといった想定がなされているが、元々、傍系のホムタ側が、そのような技術を抑えていたとはとても考えられない。従って、この想定には無理である。では、この外に何が考えられるかである。

実はそのヒントは日本書紀に書かれている。応神天皇が即位したとき、その皇后に選ばれたのは尾張一族の媛だったのである。三姉妹の中の媛が皇后になり、姉と妹も妃として仕えた。尾張の三姉妹が応神天皇を取り囲んでしまったのである。しかも皇后が生んだ子が応神の後の仁徳天皇なのである。一族の娘が天皇の皇子を産み、その皇子が天皇になるためには、娘の一族が余程の名族で無い限り、有り得ないのが当時の慣行であった。従って、書紀において尾張系の天皇の誕生を明記していると言うことは、当時の尾張氏がそれほどの名族であったことを意味している。

先に日本武尊と宮簀媛の話を経分詳しく論じたが、この宮簀媛の出自が尾張氏である。時期は初代倭王による東国平定がある程度成った頃である。そのとき以来、尾張氏は倭王家に対し何かと影響力を持っていたのである。しかし、大和盆地内の豪族達を凌ぐことは



出来ず、じっと隠忍自重していた。そして、時代の変わり目に大きく政治の表舞台に出てきたという事である。

このように見えてくると、「ホムタ・オシクマ戦争」において、尾張氏がホムタ側に付いたことは間違いがなく、彼らが合流したホムタ側はオシクマ側を優に圧倒する勢力になっていたものと想定される。しかも彼らが亀山から鈴鹿を超えて湖東に出れば、桂川・淀川・木津川流域の勢力を、南方の大和川流域のホムタ勢力と協力して挟撃出来るのである。恐らくこのような作戦でホムタ側は勝利したのかもしれない。この勝利によって応神天皇が誕生した。なお、この天皇は皇統的には傍系にあったと考えられること、政治の実権を握る顔ぶれがすっかり替わったこと等から、約一世紀後に誕生する継体天皇までのこの王家を「応神王家」と名付けることにする。

尾張氏はこの応神王家を支える筆頭格の氏族となった。しかし、彼らの栄華も一代しか持たなかった。二代目の仁徳天皇の時代になると皇后は葛城氏の磐之媛いわのひめに奪われてしまったからである。これ以降、葛城氏が台頭してくるのである。先に大和川流域の勢力として一括したが、具体的な氏族としては、大和盆地西側の勢力である。北から「し」字形に列記すると平群氏へぐり・葛城氏こせ・巨勢氏こせ・波多氏である。彼らがなぜホムタ王を担いだのかについては、前回若干触れたが、もう少し詳しく説明すると、次のような事情があったと想定される。

出雲王家の初代倭王が大和入りしたとき、彼はこれまで卑弥呼・台与が居住していた三輪山の西麓に居を構えたと考えられる。ここは大和盆地の東側になる。この王家を支えた当時の豪族の名は明らかではないが、初期のころは恐らく阿部氏が支え、中期以降は和珥氏わにが支えた。このような状況が生まれたとき、盆地西側の勢力はどのような心理状態だったかは容易に推察できる。要するに彼らは面白くなかったのである。枢要な人物が現れ、その人物に誰かが近づけば、その他の人々は遠巻きにして距離を置く。このような心理は現代においても全く同様である。

三輪山の南麓・西麓の豪族達が、初代倭王の協力者として活動し始めるようになると、盆地西部の彼らは、距離を置きながら対応するようになる。そのような状態が百年も続き、今論じているような後継者問題・派兵問題が噴出し、天下を二分するような状況になると、彼らは自ずと反出雲王家勢力になって行ったということである。劣勢の中で尾張勢力の加担によって勝利すると、彼らは「遂に俺達の時代が来た」と快哉を叫んだに違いない。

も一つ重要な豪族がホムタ側についた。それが紀氏である。この紀氏は、初代倭王の紀ノ川遡上を阻止するため、その河口付近で戦った。そして、結果的にその王子の一人が死に至る（本稿(29)【紀直氏きのあた氏】参照）。従って、初代倭王が拓いた「出雲王家」に協力していたとは考えられない。百年以上の長きに亘って彼らは、反出雲王家の立場を貫いていたはずである。従って、ホムタ・オシクマ戦争では、当然のようにホムタ側に付いた。そしてこの戦いに勝利したことで、彼らの朝廷内での地位は確固たるものになり、名族として歴史に名を残すことになった。彼らは紀臣氏きのおみと呼ばれるようになり、多くの記録が記紀に残されている。なお、この紀伊地方にはこのほかに紀直氏きのあたがおり、彼らが出雲からの入植者であることは既に述べた。

この応神王家が誕生して間もなく、予想通り百濟救援問題が表面化する。このとき活躍したのが、葛城氏、紀臣氏を中心とするホムタ勢力の豪族達だった。とりわけ葛城氏の活

躍は目覚しく、このときの働きにより、葛城氏は応神王家を支える筆頭豪族の地位に付いたと考えられる。そうでなければ一族の磐之媛が、尾張氏を押しつけて仁徳天皇の皇后となれたことの説明がつかないからである。

この百済救援問題は、先に「[広開土王碑](#)」のところで詳しく論じたので、ここでは触れないが、このときの派兵によって倭国内は大きく乱れることになる。元々、この派兵は、勝利した応神天皇側の豪族達によって行われたのは当然であるが、負けたオシクマ側の勢力も、ある程度はしづしづ協力したとみられる。更に西国諸国においても幾つかの国は協力したと考えられるが、多くの豪族達は高みの見物を決め込んでいたと見られる。結果的に、ある程度の成果を挙げて多くの兵士達が戻ってきた。

そして問題となったのが、派兵しなかった国々の取り扱いである。これまでの経緯を水に流し、従来のような同盟関係を再構築するのか、或いは何らかの制裁を加えるのかである。しかし、派兵して満身創痍で帰還した豪族達には、これまでの経緯を水に流すなど不可能であった。無傷の豪族達が許せなかったからである。こうして西国内の諸豪族を相手にした内戦が勃発することになる。派兵反対の立場だった豪族達は、結果的に「反王家」の立場に立たされることになったため、彼らは地域毎に勢力を結集し、王家軍と対峙したと考えられる。

この時代を特徴付けるのが「倭の五王」の記録である。倭の五王の時代は朝鮮半島へ繰り返し侵攻した、といった解釈が一般的であるが、倭国内はとてもそんな状況ではなかったのである。

なお、出雲王家の時代に制圧された東国地方は、倭王家の臣下として、幾つかの国は派兵に参加し、五世紀の西国における内戦には、王家側の戦力として協力したと考えられる。
(つづく)

前回：[「古代ヤマトの遠景」\(58\) - 【応神王家の誕生\(1\)】 - 「古代ヤマトの遠景」: バックナンバー](#)

■ お知らせ

○【NEW】国際プラスチックフェア (IPF Japan 2011) 出展のご案内

世界の技術をリードするプラスチックとゴムの総合展『国際プラスチックフェア』が以下の通り開催されます。

塩ビ工業・環境協会は、「塩ビものづくりコンテスト 2011」の[入賞作品など27点](#)を展示します。

- ・日 時 : 2011年10月25日(火)～29日(土)
10:00～17:00(最終日のみ16:00終了)
- ・場 所 : 幕張メッセ 国際展示場
(VECブース番号:【2ホール】20202)
- ・主 催 : 国際プラスチックフェア協議会
- ・入場料 : 当日一般 1,000円
[こちらより来場登録](#)いただくと無料となります。
- ・[国際プラスチックフェア](#)

○【NEW】日経住まいのリフォーム博 2011 出展のご案内

「リフォームのこと、誰に相談してよいか分からない」「リフォームにかかる費用や期間が分からない」「リフォーム後の暮らしや生活のイメージが見えない」・・・そんな悩みにお答えする『日経住まいのリフォーム博 2011』が以下の通り開催されます。

塩ビ工業・環境協会は、情報・出版ゾーンにリフォーム関連団体として出展し、樹脂窓・樹脂サイディングをPRします。

- ・日 時 : 2011年10月28日(金)～30日(日)
10:00～17:00
- ・場 所 : 東京ビッグサイト 東1ホール
(VECブース番号: 237)
- ・主 催 : 日本経済新聞社
- ・入場料 : 無料
- ・[日経住まいのリフォーム博 2011](#)

■ 編集後記

スポーツの秋、食欲の秋、学問の秋、収穫の秋などなど、いろいろと表現される秋の中に芸術の秋があります。今週のトピックスで取りあげられた芸術性に富んだ製品の持つ普遍性には驚ろかされました。今でも斬新に感じられる製品が、実は3、40年も前に生み出されたものだというのです。IT産業に象徴されるような日々目覚しく進歩する技術がある一方で、時間の流れを感じさせないのが芸術なのでしょうか？(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp